



## 東京学芸大学 養護教育講座

### シンポジウム 「いのちの大切さを考える教育」

東京学芸大学 養護教育講座では毎年「いのちの大切さを考える教育」というテーマのシンポジウムを開催しています。今年度は4回目となり、益々充実した内容となっています。

#### シンポジウムの趣旨

これから教員になろうとする学生、現在、教諭あるいは養護教諭である者にとって、人間の生命や生と死について、子どもたちにどのように教育するかは、重要な課題になっています。保護者やいろいろな場で子どもにかかわる大人や一般の方々の関心も高いと思われます。

すでにいくつか「いのちの教育」「いのちの学習」の実践が行われていますが、私たちにとっては未知の領域であり、授業実践などもまだ模索の段階であるように思われます。そのほかにも、生命倫理やがん、難病など重篤な病の体験の語りなど、さまざまなアプローチが可能なのではないのでしょうか。

そこで、人間、とくに子どもたちのいのちや生死に関わって仕事をされている方から、「いのちの大切さを伝える教育」についてのお話を伺い、まず大人である私たち自身がこのことを深く考えるきっかけや教育・学習を行ううえでのヒントを得たいと思っています。シンポジストによるご講演を拝聴いただいた後、自由な意見交換を企画しています。

シンポジウムは以下の日程で行います。「いのちの教育」に興味のある、学生、教諭、養護教諭や一般の方々の参加をお待ちしております。是非ともご参加ください。参加費は無料です。

**1月29日(土) 13時～16時 東京学芸大学 C201 教室**

#### シンポジスト

**早田 典子 先生：チャイルド・ライフ・スペシャリスト**

チャイルド・ライフ・スペシャリストという専門家として、日頃子どもの生と死に接しておられる立場から、たくさんのヒントを頂戴します。また、学校での「いのちの教育」についてのお考えやアイデア、ご意見等を伺います。

チャイルド・ライフ・スペシャリストとは、病気を持つ子どもの闘病生活や、慣れない病院生活における子どもの精神的負担をできるかぎり軽減し、こどもの成長を支援する専門職です。仕事の内容は、入院している子どもの遊びの支援、子どもの理解力に応じた病気の説明、治療における精神的支援、子どもとその家族の精神的支援などさまざまです。チャイルド・ライフ・スペシャリストは、子どもを「尊厳ある存在」ととらえ、心に寄り添い、子どもの目線に立つことを理念として1950年代北米を中心として発展しました。

日本チャイルドライフ研究会 <http://claj.miz.jp/>



**増子 孝徳 先生：弁護士**

弁護士の立場から見た医療や教育における子どもの人権について現状をお話いただくとともに、現代の子どもたちの「いのち」の教育に関する課題等をご提示いただきます。

分担執筆著書『医療における子どもの人権』 明石書店

主催：東京学芸大学 養護教育講座 朝倉 隆司、竹鼻 ゆかり

問い合わせ先：東京学芸大学 養護教育講座 竹鼻 ゆかり

東京都小金井市貫井北町4-1-1

e-mail: [takehana@u-gakugei.ac.jp](mailto:takehana@u-gakugei.ac.jp)

電話 042-329-7638

